

第6回 在宅医療・介護連携のための多職種連携研修会

- 1 開催日時：令和元年10月25日（金）午後1時20分～午後3時30分
- 2 開催場所：淀川区民センター3階 会議室
- 3 講師：淀川区認知症施策推進担当（淀川区オレンジチーム看護師）
森 俊文 先生
- 4 演題：知ってもらいたい～認知症のある方の支援について～
- 5 出席者数：55名
- 6 内容：

認知症について、アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭型、脳血管症など、様々な種類があり、どういった病気であるか、その原因や初期症状、治療薬や薬物療法以外の治療法など、詳しくわかりやすくご説明いただきました。

認知症の初期は専門の医療機関の受診が不可欠で、**早期発見・早期診断・早期治療**は非常に重要であるとお話しいただきました。また、**介護するときの心がけとして、安心感を与えることが大切で、優しく接すること、笑顔でうなづくこと、よく話を聞くこと、さびしくさせないこと、怒らない、否定しない**など具体的に教えていただきました。

認知症の人への対応の心得として、「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」3つのないの姿勢が基本で、介護者も無理しないことが大切であり、様々なサービスや制度の活用、ケアマネジャーに求められることなどお話しいただきました。



7 参加された方のご意見等

- ・ 早期発見、早期に専門機関による治療が大切であることがよくわかった。認知症が疑われる場合は、オレンジチームと連携を図っていきたい。
- ・ 必要なサービスになかなか繋がらないことが多く、時間をかけても難しいことが課題である。
- ・ 認知症なのか、精神疾患なのか、判断が難しいケースがある。そういったケースは自身の病気を認めたくないため、受診も簡単ではないので、対応に苦慮する。
- ・ 「社会とのつながり」が認知症の進行予防にも有意義であることが確信づけられた。物忘れが増えながらも、自宅に閉じこもっておられる方をどのように外に連れ出せるか、支援に頭を悩ませています。今回の研修内容を活かしていきたいです。